

挑戦と希望の地域支援・ 訪問看護ステーションと他機関との連携支援 報告書

1、開催趣旨

2、実施報告書

3、アンケートコメント

一人ひとりに寄り添う
地域の安心看護

地域の安心看護は、一人ひとりに寄り添います。
あなたの個々のニーズに合わせて、
心地よい生活をサポートします。

挑戦と希望の
地域支援・訪問看護ステーション
と他機関との連携支援

2024 (月・振替休日)
参加費無料 8/12 会場 市民プラザ 4階 イベントホール1
高崎市橋通西1丁目1番2号
時間 13時～17時 定員 120名

【主催】特定非営利活動法人 宮崎もやいの会 【共催】聴ルシストの会
【協賛】コロとカラダのリハビリステーションほか、訪問看護ステーションずり、
訪問看護ステーションむさ、聴覚介護支援事業所の会、みっはな協賛会、
NPO法人ホームホスピス宮崎

お問い合わせ先 特定非営利活動法人 宮崎もやいの会 宮崎市丸島町4-3番6シャトーモリオカ203号
TEL・FAX 0985-71-0036 (地域活動支援センターかふえらて内)

【お申し込み方法】
チラシの裏面を
ご覧ください。
FAXまたはTEL、
申込フォームから
お申し込みください。

連絡先：特定非営利活動法人 宮崎もやいの会

〒880-0813 宮崎市丸島町4-3 第6シャトーモリオカ 203号

TEL&FAX：0985-71-0036 (地域活動支援センターかふえらて内)

E-mail：m-moyai@kag.bbq.jp

<http://www.m-moyai.com/index.html>

開催趣旨

全国に精神疾患者が、614万人（20人に一人・令和2年度患者調査）という現状は、年々増加傾向にあり誰もが罹患する病気であることを証明していますが、まだ、偏見によって特別な病気・障害として社会に受け入れられない現実もあります。

（統計上：宮崎県に6万人、宮崎市に2万人）

そのような中、法人として、訪問看護ステーションと他機関や他職種の専門職が連携して精神障がい者の地域での生活を支援するための取り組みを推進することを目的としたイベントを企画しました。

精神障がい者の方々が地域社会で充実した生活を送るためには、医療、福祉、就労、居住などの分野を横断した連携が不可欠であり、訪問看護ステーションを含む各機関や専門職の協力が重要であります。

精神障がい者の方々が地域で充実した生活を送るためには、病状管理や日常生活の支援だけでなく、地域社会への適応や社会参加の支援も必要不可欠です。そのためには、訪問看護ステーションをはじめとする医療機関や、福祉機関、就労支援機関などが連携し、包括的な支援体制を構築することが求められます。

訪問看護ステーションは、精神障がい者の方々が自宅や地域で安心して生活できるように、定期的な医療管理やケアを提供する拠点です。また、地域のお機関や他職種の専門職と連携し、利用者のニーズに合った支援を提供する役割も担っています。

しかし、これまで連携体制は十分に整っておらず、精神障がい者の方々が地域で適切な支援を受けることに課題が残っています。

このイベントでは、訪問看護ステーションを中心に、地域の各機関や専門職が一堂に会し、精神障がい者の地域での生活を支援するための連携強化に向けた議論を行います。支援者がお互いの役割やニーズを理解し、連携を深めることで、精神障がい者の地域生活において不安なく過ごせるための支援体制が構築されることを期待しています。

プログラム

- 1、13時30分～13時40分：主催者挨拶
- 2、13時40分～14時20分：訪問支援の映像
パート1：挑戦と希望の地域支援/訪問看護ステーションの積極的支援
- 3、14時20分～14時30分：休憩
- 4、14時30分～16時00分：パネルディスカッション
パート2：連携の力で拓く未来/訪問看護ステーションと他機関の連携
- 5、16時00分～16時30分
パート3：来場者との質疑応答
- 6、16時30分：イベント終了

実施報告書

1、開催日時：2024年8月12日（月曜日・振替休日）

2、開催場所：宮崎市民プラザ4階 ギャラリー1

3、参加者数：87名

4、テーマ

パート1：挑戦と希望の地域支援

テーマ：「3カ所の訪問看護ステーションの訪問支援映像」

パート2：連携の力で開く未来

テーマ：訪問看護ステーションと他機関との連携支援に関するパネルディスカッション

5、内容

パート1：挑戦と希望の地域支援

テーマ：「3カ所の訪問看護ステーションの訪問支援映像」

① 訪問看護ステーションすずり

訪問看護ステーションとしての会社概要を話されて、精神疾患の支援実績が年々増えてきたことを説明され、安心する在宅生活を支えることを目指される。

脳梗塞後の後遺症のある利用者を取材され、独居生活の中で生活環境を如何に整えて生活を支えるか、基本的な訪看としての姿勢であり、その姿勢で精神利用者にも対応して、寄り添って話を聞くことに徹した支援スタイルで「いつでも、どこでも、何でも」をモットーにサービスを提供するので依頼先や利用者に好感を持たれている。

② 訪問看護ステーションつむぎ

包括支援センターからの依頼があり、内服管理がうまくできない相談を受け、その根本的解決策を考えて精神科の主治医に相談して訪問の時間を確保できるようにすることで、密着した支援が可能になり、相談などに対応できることで病状も生活も安定してきて、家族からも訪看に支援していただいてよかったという声を映像で語られる。

家族会からの紹介で、グループホームに繋げて、グループホームに訪問看護として介入することで医療面や生活面の不安を解消して安定した生活ができるようになり積極的に意欲が出てきて施設での生活を楽しまれているという施設長の声を映像で見る。

③ ココロとカラダのリハビリステーションほのか

8050 問題の家族を取材される。高齢者のケアとしてリハビリで介入した家族から娘のことなどで相談されることになり、訪看として娘さんの医療的な面の改善や生活の改善を目指すには、生活を整えるための支援として携わるスタッフチームでの話し合いを重要視して、その人らしくをモットーに適切な支援を実施することにこだわっていることが映像を見て感じさせられる。

利用者が地域で自立していくためにチームで適切で最善の支援を実施していきながら家族と利用者の間を調整して他機関との連携を依頼して、より自立へ導いていく地域支援を目指される。

パート2：連携の力で開く未来

テーマ：訪問看護ステーションと他機関との連携支援に関するパネルディスカッション
パネラーとして、訪問看護ステーション3カ所の代表、訪問診療所のスタッフ、地域包括支援センター職員、宮崎市議、という地域で支援している機関の方達がパネラーとして登壇して頂く。

各パネラーに利用者や患者・住民の課題を他の機関との連携支援に関する事例を話していただく。

訪問看護の支援の中で家族と直接接触することで他の家族のことで相談を受けたりする現実に他の機関との連携なしには支えられない現実を、如何に連携して支えていくことができるか、如何に連携できる関係を他機関と構築することができるか、という課題がある中で、利用者の要望に沿う形での支援を実施するには、医療・福祉・就労・居住・日中活動などの要望に応じた専門職が必要で一事業所では対応できない課題もあることから他機関との連携の必要性を訴えて、その課題を解決する道を描くことでより利用者ファーストの支援が可能になるということとを共有できるパネルディスカッションでした。

6、成果

1、パート1：挑戦と希望の地域支援「3カ所の訪問看護ステーションの訪問支援映像」

・動画を観て、それぞれの訪問看護の業務内容や各事業所のポリシーについて理解が深まることになり、他職種との連携の重要性も感じられ、この連携によって患者やその家族にとって安心感をもたらすことになることを理解してもらえらる。

動画の内容が非常に分かりやすく、視覚的に理解しやすかったという意見が多くあり、映像を通じて事業所の特徴や独自性、活動内容が伝わりやすかったとの声もあり、映像による発信がリアリティのある情報提供になり評価される。

利用者や家族との関係を大切にしている事業所の姿勢が高く評価され、チームプレイでの対応が患者にとって心強く感じてもらう。

精神障がい者の地域での生活を支える訪問看護の役割の大きさが実感され、地域の関係機関との連携によって、患者とその家族がより安心して生活できるように支援している点が評価される。

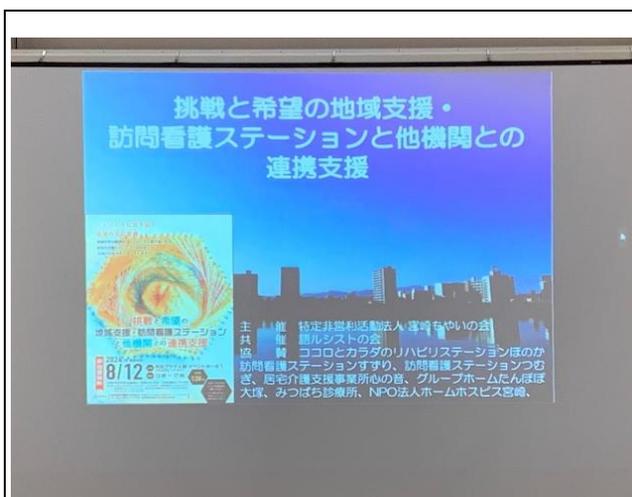
2、パート2：連携の力で開く未来「訪問看護ステーションと他機関との連携支援に関するパネルディスカッション」

・今回のパネルディスカッションでは、地域支援に関して、訪問医療・看護による地域での生活支援の重要性が話される。特に、サービス提供者の居宅訪問が地域支援として認識されることに対する関心が高まり、地域の健康と福祉におけるその役割が再評価されました。高齢者や障がい者への地域支援のサービスがあることが十分に周知されていない現状についても、パネラーから表明される。

地域連携に関しては、医療・福祉・介護の各分野間の協力の重要性によって利用者の自立に効果のある事が強調される。具体的な連携事例や課題解決策に関する事例の内容によって、共有することが出来、他の専門職や機関との横のつながりが、効果的な支援の提供になり、他機関との連携による支援が不可欠であることが改めて認識されることになる。また、制度の狭間にいる方への支援に関連するコメントもあり、法制度のグレーゾーン

にいる人々への支援の不足が指摘され、民間の裁量での支援にも限界があるのも現実で、そこをどのように対応していくか、課題であると同時に、狭間の支援に対して具体的な事例を通じて支援の方法を学ぶ機会にもなる。

当日の会場の画像



開演前の展示画像



パート1の会場風景



パート1の会場風景



パート1の会場風景



パート2のパネリスト



スタッフ&当日ボランティア

アンケート結果

回答者48名

1, 今日のイベントを何でお知りになりましたか。

- ・友人、知人: 21.28% ・福祉関係者: 21.28% ・チラシを見て: 17.02%
- ・医療関係者: 8.51% ・その他: 4.26%

2, あなたの職業・所属について具体的に教えてください。(複数選択可)

- ・医療従事者: 17.02% ・施設職員: 10.64% ・その他: 8.51% ・当事者、家族、市民: 各 6.38% ・その他の職業・所属 (各 2.13%)

3, パート1の訪問看護ステーションの訪問支援に関して、

- ・理解できた: 59.57% ・大変良く理解できた: 38.30% ・無回答: 2.13%

4, パート2の他機関との連携に関するパネルディスカッションについて、

- ・理解できた: 36.17% ・大変良く理解できた: 29.79% ・無回答: 31.91%
- ・あまり理解できなかった: 2.13%

アンケートのコメント

パート1：挑戦と希望の地域支援

・ひきこもりや、無為に過ごす患者にとって“訪問看護の時間が楽しみ”となってくれるような関わりをされているなと感じました。今日の動画撮影に協力して頂いた患者さんや家族に感謝したいです。

・訪問看護の業務内容や各事業所の信条等がうかがえ、心強さを感じました。各事業所ごとに活動内容が良く理解できましたが、少数の人員(スタッフ)での対応大変だと思いました。

・業務内容がよくわかりました

・精神障害を支える訪問看護の取り組みがよくわかりました。専門性を生かしつつ、他職種で同じ目的に向かって連携しながら支援をすることが大切だと感じました。

・熱量をバンバン、あきらめずにしっかりとねばりづよく、を感じました。つむぎさんが、障がいの事業所と連携してのグループホームにつながった事例にはおどろきました。”

・多様なご経験の方のお話をきくことができ大変勉強になりました。

・精神疾患・医療処置・定期内服(自己管理困難)の為に地域では住めない、ではなく訪問看護という資源がある、検討ができるというのは素晴らしい事だと思いました。また、身体面だけではなく精神面も一緒に支援するという取り組みは、本人・家族にとって、暮らしの安心に繋がっているのがよくわかりました。”

・良くわかりやすかったです。

・精神ケアを深くかんがえてしまい遠のいていたが考えがかわった。

・ほのかさんが関わっている方の動画に出てたシミズさんも昔からよく知っていて、久し

ぶりに今日会いました。今、ほのかさんが関わってくださっていることで、以前からするととても元気になっていて、とても嬉しかったです。幅広い専門職の方がかかわっていただけで安心です。それぞれの動きがよくわかりました。

- どちらの事業所も利用者や家族との関係づくりを大切にしていると感じました
- 1人で抱えずチームで情報を共有しながらケース毎に対応されているので、患者側からしたら心強いだらうなと思いました。大変良く支援してくれています。感謝しています。
- いつもありがとうございます。今後もお願いします。
- それぞれの事業所の様子を分かることが出来ました。
- 精神疾患をかえている方が増えていることを痛感した。訪問看護が介入することで他の職種などにつなげたり、即解決にはならなくてもなんらかの進展はあると思った。看護師とかりハビリ職とか職種というよりも、かかわる人の人柄が大きく影響するのでは。
- 精神疾患を抱える方が地域での生活を継続する上で、訪問看護の持つ役割の大きさを実感した。また、訪問看護だけではなく、相談支援事業所や包括支援センターなど、地域の関係機関と連携することで、対象者やその家族がより安心して生活することができるし、支援者もより良いサポートを提供することができることを感じた。貴重な映像を見せていただき誠にありがとうございます。
- 支援の内容の報告について、インタビュー形式をとられてて実際現場で働いている職員や利用者さまの声を聞くことができ理解が深まりました(リアリティーがあってよかった)、支援結果(どこにつないだ、利用者さまがこのような改善に向かった)が映像でみることができるのはよかった。
- 精神疾患を持つ患者への介入、各事業所での様々な取り組みを知ることができ良かったです。
- 多職種で対応されてる事業所があり、市民として安心しました。
- 各事業所の“想い”を知ることができたように思います。想いを発信することも大事なあと。
- 各施設が大切にしていることが、事例への関わりと合わせて理解できました。
- とても良い動画でした。すべての訪看にこのような動画を準備して市民のみなさまに伝えて欲しいと思いました。それぞれの事業所を知る良い機会となりました。”
- 細やかな事が多いと思いました
- 精神障がい者の困難な状況は、変わらないと思いました。訪問看護の存在もここ数年の単位で知り、利用してます。2週間に1回、土曜日に話を聞いていただいております。大変助ってます。
- 利用者の方の話などもまじえられて、わかりやすかったです。
- チームプレイで患者さんを支えている様子がわかり、とても良かったです。
- 障がい者も一人一人違います。まず外への第一歩が地元で支援を受けられるのは本当に助かります。それぞれのステーションの映像が見れて良かったです。24時間対応は家族として安心です。”
- 理解できた時点で言うと、やはり面とむかって、会って話す事。そういう「居場所」が大事な事。対面として。実際問題、精神疾患になった事で、どうこの病とつき合っていくか、理解者はどこにいるか、おるのかそういう情報がほしいし、民生委員の方達も、もっと動いてもらいたいと思いました。
- 事例等を知ることができて、勉強になりました。職員の方々の人数に対して利用者数が

多い現状を知ることができた。

- 動画での視聴でしたが、その事例が結果的にどうなったのか、具体的にどのように支援したのかあまり分からなかった。もう少し深掘りして理解に繋がれば良かったです。
- すずりさんの具体的な連携の内容が知りたいと思った。精神疾患の患者さんの支援は本当にむづかしいと思います。慣れた看護師さんの対応（ゆっくりした対応、やさしさ）は、ご本人の安心につながると思います。”
- 世界は優しいと思えました。老いること、失うこと、生きていく上で、生じる様々な不安に寄り添い伴走して下さる支援を知り、市民相談で受けた方をお繋ぎする先を見つけることができ安心しました。
- 1つ1つの事業所のカラーが伝わっていて良かったです。訪看の役割が地域生活の継続には必要だと感じました。
- それぞれの事業所からの活動内容を映像と共にご報告いただいたことで、状況が想像しやすく、とても分かりやすかったです。多職種の方々と連携を図りながら、日々利用者様と真摯に向き合われている姿に感動しました。業務を行いながらの動画作成は非常に大変だったかと思います。貴重な動画を拝見させていただきありがとうございました。
- 制度に載っている人や、制度を利用する意欲のある人へのサポートは手厚いなと思えました。制度に載らない(載れない)人、利用意欲のない人には手助けしたくともできませんもの。
- 動画わかりやすかったです、映象あるとわかりやすいです、良かったです

パート2：連携の力で開く未来

• “地域”という言葉が何度も出てきましたが、あくまでも患者さんの居宅を訪問することを“地域に出る”とおっしゃっているように思えました。医療サイドからの見方だけの話をなかなか出てない。ま専門職としてはそういう言い方しかできのかなと感じます。

そこに包括や他の生活に関わる情報が大事ですね。

車いすの小児科医の熊谷晋一郎さまの言葉に「自立とは「依存先を増やすこと」という言葉がありますよね。患者(当事者) 本人もそうになっていくことが望まれるとは思いますが。そして訪問看護ステーションもそうかと思えます。

• 専門職や危険は、「〇〇」に相談してみてくださいと言いますが、専門職や機関は、その専門職や機関の一員であるという看板があるからこそ、他の機関に対しても物を言いやすいのです。「ドクターに言いにくい」という表現もあったかと思いますが、当事者者本人にとっては、ドクターはおろか、訪問して下さる看護師さんやヘルパーさんに対しても壁を大きく感じるものだとすることを心にお留め下さい。

• 高齢者、障がい者の方が受けられる支援を知らない事が多いのは実感しています。訪問看護の仕事をしているが、福祉の知識が必要だと感じている。担当者会議なので、情報共有をしていく事の必要性を再認識した。事業所として利益は大事であるが、事業所ファーストであてはいけない。

• 7名（1名司会）のディカッションと報告と課題の内容がまだまだ深い問題があると思います。国の力をおおいに活用して看護からもれて看護が受けられない人をフォローする法律を見直すべきだと思いました。”

• 医療職からの連携の具体的な考え方や事例等が聞けて良かった。こういった素晴らしい

志をもった支援者の輪が広がるといいと思った。

- ・司会の方の前振りよりも真摯な進行よかったです。それぞれの心強い連携。
- ・各々の役割が少しずつ異なるなかで、地域にある生活課題に取り組む内容や想いについて聞くことのできる機会だった。
- ・各事業の課題、困ったことを過疎地で考えるにはどうたらよいかわかった。
- ・連携についてのすこし具体的な事例や課題、その解決策（線を面にしていくネットワーク）(失敗例も含め)等をもっとつっこんでききたかったです。特に専門職でない人(働えば地域の人とか)との連携等も聞きたかった。せっかくたくさんの方のパネラーがおられたので、司会者の質向に答えるだけでなく、パネラー同士のやりとり等（ディカッション）も聴きたかったです。
- ・語ルシストの会の理念を明確に多くの事業所や関係機関が賛同してもらえるといいなと思いました
- ・正直な話をいろいろ聞くことができよかったです。相談することに緊張しないでよさそうと、安心できました。
- ・地域支援・各機関との連携がいかに大事であるか、情報を共有し、支援していきたい。利用者一番で！
- ・有意義な話がきけてよかったです。議題を読みあげてもらおうと助かるが、頭の中に記憶するのが大変です。映しだすか、プリントでも確認できるようにしてほしい。
- ・医療、介護、福祉、行政、それぞれの領域や役割がある連携支援のキーワードは、人とのつながり、(心の)すきまを埋める飲みニンケーションが大事ですネ。
- ・福祉といっても、高齢者分野にかたよっている印象でした。それを、障害者、精神障害者の地域生活の支援に向けてどう活かしていくかというところをもっと聞きたかったです。
- ・みつばち診療所の前畑 NS の訪問看護指示書(精神)の内容がわかりやすかった。嶋田議員の事例、制度の狭間、グレーゾーンにあたる方が多数いる→「私たちが声をあげていくことが大事」が心に残った。
- ・普段、関わる機会の少ない方々たちの話を聞くことができ勉強になった。本日の研修を通じて、人とのつながりの大切さを改めて実感した。何かあったとき、互いに支え合いながら支援していくためには、地域の方々とのつながりが重要だと感じたため、こからの業務や生活の中で、人とのつながりを大切にしていきたい。
- ・貴重な話を聴かせていただくとともに、参加者からの質疑応答も丁寧に対応して良かったです。
- ・様々な職種から“連携”に関して日頃からどのように考えているのか知ることができ、とても貴重な機会になったと思います。病院の MSW として、今後どのような取り組みをしなければならないのか改めて考える機会になりました。
- ・制度上、クリアできないグレーの人たちがたくさんいるということ、変えていかなければいけないと思います。制度上は使えるのに、受け入れてくれる施設がないという現実も難しい問題ですね。
- ・各事業の役割と連携での対応を目指している現状をお聞きして、これからの生活について希望をもつ事が出来ました。
- ・様々な立場からの率直なお話が聞けて良かったです。連携→道すじを提示することが大事なんだなあと学びました。狭間にいる人だなあと思いながら支援している方がいるので、

そういった困難事例について更に教えていただけたら、と思ったところです。

・それぞれの分野事業所のかかえている課題や連携の実態が見えました。やっぱり横のつながりが重要で、そこから解決する課題もあるということが実感できるディスカッションでした。

・貴重な機会だと思いました。この会自体が利用者・家族ファーストの連携を生むと思いました。

・質問が長すぎて、メモをしないと理解できない。参加者に、質問内容の文面がほしい。

・もっともっと、皆様のご意見を出されて、皆様のお力で心強いパイプ（連携）の厚い地域支援になって下さい。又私共も努力をしていきます。

・認知症のだいたい80歳代とそれ以上の親世代と50歳代とそれ以上の子供世代の精神障がい者との生活のあり方、食事、入浴、トイレ等々、自分の生活と重なり考えさせられました。

・地域包括支援事業所と、特定相談支援事業所との連けいがかもっと必要ですね。

・事例発表が聞けてとても身近になりました。訪問診療の話が聞けて少しホッとしました。

（往診24時間・365日対応）”

・パンフレットのみではわからない内容がパネルディスカッションでくわしくわかりました。親しくあとの対応の相談に先日病院担当者と話しました。安心に出来る支援も知り、知ることの大切さを感じました。

・「飲みニュケーション」はできる人、できない人がおられるので、他の方法はなのか、と思います。身近にも「ヒキコモリ」をしている方もいるし、そういう方への情報共有ができればと思う。精神障がい≠障がいではない、いずれなおると思われたりするので、そして、どうにか出てこないかと考えたりもしました。精神疾患の当事者なので、その目線でいうと「見えない障がい」なもので、早く見つけてもらいたいし、そういう人に対して支援（会話等）聞いて話しをしてもらいたいと思いました。

・各事業所の卒直な意見、考え、感想が聴けて勉強になった。

・はざまにいる人達にどのように支援を届けるかというお話が面白かったです。連携するのに自分がどのような姿勢をもつべきか勉強になりました。

・包括で個別ケア会議ができることがわかりよかったです。困難事例をひとりケアマネではかかえきれないので！

・良い支援の為には、他事業所等横のつながりが良好であることが大切なのだと学びました。緊急時の対応を意識してかかわりたいと思います。人間性が壁になることもあるという言葉がとても印象的でした。”

・パネラーの方たちが具体的な事例をもとに、それぞれの立場からご発言された内容は、きれいごとではなく、現状を反映されているもので大変勉強になりました。私自身は実践家ではなく教育者ですが、ぜひ学生にも聞いてほしい内容だったと感じました。

・レジュメを配布して頂いたら助かりました。お話を聞きとっているうちに、何の話か分からなくなってしまったのです。

・ピアサポーターの方の話も聞けると良いと思います。

・色んな立場の方から、具体的なお話を聞くことができました。課題が多様で複雑になっていく将来かと思いますが、横のつながりを大事に向きあっていきたいと思います。ありがとうございました。”

主催者に対するご意見、ご要望

- ・たいへん勉強になりました、ありがとうございました。
- ・今日は勉強になりました。ありがとうございました。
- ・これだけつながりをうむ歩みをつづけられて、すごい、すてき、あたまさがります。
- ・訪問看護ステーションの取り組みを広く周知させる為に、工夫の余地があると思いました。(ZOOM 参加など)
- ・お疲れさまでした、訪看さんの役割の大きさ、重要性を痛感しました。今後も発信をよろしく願います。もやいの会の瀬戸口さんの意見参考になりました。
- ・今後もこのような会を開催していただけるとありがたいです。
- ・お疲れさまでした。ノミニケーションは大切なんですね。”
- ・92歳の元気な母だけど、問題山積みで大変な時にタイムリーなイベントに参加できました。
- ・初めて参加させていただきました。とても有意義な時間でした。
- ・今後も同様に続けてほしい。
- ・病院のMSWがもっと参加されるとより多機種連携(顔のみえる関係づくり)につながるのではないかと思います。”
- ・この様なイベントをまた行なって欲しい。
- ・話ルシストの会、参加したいと思っています！！介護保険と障がい福祉との兼ね合い、各制度移行について学びたいです。”
- ・この研修を、市ケアマネ協の研修でやって下さい。パネラーが、「ほんまでっかTV」みたいで、POPに学びました。
- ・今後もこの様なイベントを開催して欲しい。元気になり安心します。また、イベントを企画していただきたいと思います。参加したいと思います。
- ・視野が広がった気がしました。参加できて良かったです。
- ・家族会の中でも他機関との連携支援を知りたい方が多数おられますので、次回は参加者を多くして聞いて欲しいので、年に1、2度開いて欲しいです。(希望です)
- ・精神障がい者でないと思込む当事者もいらしゃるので少しでも理解を深めていければと思います。家族の理解度によって当事者のしないといけない事が多すぎる。精神病になった→医療機関にたよる→そこでだいたい支援の仕方がわからない→とい現実があるので、是非とも情報格差のない状態になるような事をしてほしい。
- ・企画・運営お疲れ様でした。
- ・小林さんの、主催されている「宮崎もやいの会」を知ることができてよかったです。
- ・このような会を当事者やその家族にもっと発信してもらいたいです。どうすれば良いかわからなくて困っている人も多いと思うので。
- ・包括支援センター(介護)と基幹相談支援センター(障がい)との連携した事があれば知りたいと思いました。
- ・地産地招のイベント、とても素敵なネーミングだと思いました。準備から当日運営まで大変かと思いますが、ぜひ今後も継続していただけたらと思います。”
- ・熱く誠実な企画ありがとうございました。
- ・皆様おつかれ様でした。

認定特定非営利活動法人
H・H・M ホームホスピス宮崎

0歳から100歳まで安心して生活できるまちづくりを目指して



ホームホスピス
かあさんの家



訪問看護 ST
ばりおん



在宅療養支援
みつばち診療所



相談支援事業所
luana (ルアナ)



福祉型短期入所
leilei (レイレイ)



日中一時支援
ohana (オハナ)

住所：宮崎市恒久2丁目19-6（本部）
電話：0985-53-6056（本部事務局）
メール：office@npo-hhm.jp（本部）
Web：https://npo-hhm.jp

在宅療養支援診療所
みつばち診療所

通院が困難で、定期的な診療が必要な方に
医師がご自宅にお伺いする訪問診療のクリニックです。

お気軽にお問い合わせください

☎ 0985-41-8938

対応時間は、月～金の8:30～17:30です。

共同生活援助 介護包括サービス型 女性棟

グループホームたんぽぽ 大塚





心と体のリハビリに特化した訪問看護ステーションです。



TEL / 0985-64-9950
(受付時間 / 8:30 ~ 17:30)

FAX / 0985-64-9951

定休日 / 土日・祝

住所 / 889-1612
宮崎市清武町間1丁目14番地4

ケアマネジャーも在籍しています。
お気軽にご相談ください。

「自分の家で過ごしたい」
あなたの思いを叶えます

訪問看護ステーションつむぎ

0985-72-0365

訪問エリア：佐土原町 西都市 新富町 高鍋町

訪問看護ステーション
すずり

TEL : 0985-40-2280

携帯 : 080-7438-3179

24時間

宮崎市淀川3丁目10-12 日高ビル1階



houkansuzuri.com

いくつもの「想い」が重なり合い
「芽」となり 「葉」となり あなたらしく「花」ひらく…
幸せな未来へつながる 現在(いま)を支えたい。

居宅介護支援事業所
心の音

このん

カタルシストとの語源である、「心のモヤモヤが
晴れ、スッキリとした人」、福祉に携わっていて
個人的に抱え込んでいた課題や悩みを解決してい
くことを目指して、任意に語り集まる会！

- ・日時：毎月第4金曜日、19時～21時、
- ・場所：県福祉総合センター1階ミーテングルーム
- ・連絡先：0985-71-0036（小林）

「語ルシストの会」

お互い支え合い、居心地のよい居場所が
街中に開所しました！

楽しく
陽気に
活動する
面白く
喜ばれる

地域活動支援センターかふらで

宮崎市松山1丁目6-7 TEL : 0985-71-0036
<https://blog.canpan.info/nangoku/>

NPO 法人 宮崎もやいの会

僕は、「できない理由」ではなく
「どうすればできるか」を考えたいんだ



<http://www.m-moyai.com/m-moyai/index.html>

